

平成23年度 第2回高等学校入学者選抜審議会 記録

平成23年11月17日(木) 10:00~12:00

県庁9階 第一会議室

< 審議会委員 >

菅野 仁委員長, 青木 栄一副委員長, 西野美佐子委員, 伊藤 吉里委員(欠席),
山口 一美委員, 奈須野 毅委員, 伊藤 宣子委員, 高橋 睦磨委員,
高橋 泰委員, 及川 英之委員, 堀籠 美子委員, 八巻 賢一委員,
氷室 眞也委員, 磯原 眞行委員, 小野寺千穂子委員, 渡邊 幸雄委員

< 県教育委員会 >

小林教育長, 高橋教育次長, 鈴木教育企画室長, 熊野義務教育課長, 氏家高校教育課長,
阿部高校教育課長補佐

(進行)

(公開の確認)

(開会)

(出席者の確認)

(教育長)

(教育長あいさつ)

(委員長 司会進行開始)

(委員長) 本日の審議もよろしくお願ひしたい。それでは、まず、事務局から資料確認を願う。

(事務局)

(事務局より、資料確認)

(委員長) 審議事項「平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜日程について」について、第1回に引き続き審議したい。これについて後ほど答申を取りまとめた。はじめに、第1回の議論内容の確認を願う。

(事務局)

(事務局より説明)

(委員長) 質問あるか。特になければ、「平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜日程について」議論願う。

前回は基本的にはおおむね賛成の意見が多かったと記憶している。

(伊藤(宣)委員)

本日の配付資料の6ページ選抜日程に私立高等学校25年度日程を明記いただいたことに感謝する。これと同様に5ページの日程案表にも私立高等学校の日程を加えて欲しい。

(堀籠委員)

入試の始まりがこれまでずっと1月であったが、中学校の事務作業量を考慮し、入試を2月に実施することに感謝する。いい日程である。

(山口委員)

5ページに私立高校の推薦日程も追加した上で、考慮願いたいと思う。

(高校教育課長)

枠取りがないが、私立の推薦日程も含めて検討願う。

(委員長) 他にご意見はないか。なければ前回の審議でも賛成ということであった。すべての方々に対して、100%の日程はなかなかないものである。本年度に関しては受験者にとって重大な不都合がないと思われるので、「平成25年度入学者選抜日程」については諮問のとおりでいかがか。

<了承>

(委員長) では、「平成25年度入学者選抜日程」は諮問どおり答申することとする。次に答申文の確認に入るが、手元の内容を確認願いたい。

(答申文確認)

(委員長) 何かないか。これでよろしいか。

<了承>

(委員長) では、答申を行う。

<委員長から教育長へ答申>
(委員長 答申文読み上げ)
(教育長あいさつ)

(教育長退出)

(委員長) では、報告 「平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」の説明を願う。

(事務局) 報告 「平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」
・平成24年度入試変更点
(事務局より、資料に基づき、内容説明)

(委員長) 報告 「平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」、質問があるか。

(山口委員) 被災状況副申書について、「特別な事情」の基準はあるか。校長判断だけによるのか。

(高校教育課長) 最終的には中学校長の判断である。生徒との進路相談等の中で高校側に状況を知らせた方がよいと判断されることがあれば校長から提出することとしている。中学校側と生徒が十分コミュニケーションを図ることが前提である。

(委員長) 報告 「平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」、第1回予備調査の結果について、事務局から報告願う。

(事務局) 報告 「平成24年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」
・第1回予備調査の結果について
(事務局より、資料に基づき、内容説明)

(委員長) 美田園高校の一期入学者選抜と二期入学者選抜の件で、事務局から、補足を願う。

(高校教育課長) 平成24年春から美田園地区での開校としていたが、予定地が75センチの津波被害となり工期が遅れ、平成25年度に移転することとなった。平成24年度は仙台第一高等学校で開校することとなっている。具体の準備状況は氷室委員から願います。

- (氷室委員) 今までは準備生課程として実施していた内容を、学び直しとしてカリキュラムに組めるようになった。今年度までスクーリングは日曜日と月曜日だけであったが、来年度からは、平日に個別指導で登校しても、出席としてカウントできるようになる。スクーリングのサテライトを美里町に設置し、生徒の便宜を図る。来年度は石巻と気仙沼にも設置する。また、9月に二期入学者選抜を行う。卒業も9月にできるようにする。
- (委員長) 第1回の予備調査の結果などを踏まえて、実際に被害の大きかった石巻地区の中学生の動向など分かれば、小野寺委員、報告を願う。
- (小野寺委員) 予備調査からは中学校の動向は詳しく分からないが、女川高校が募集停止をした関係等で倍率が例年並みとなったのかと思う。
- (高校教育課長) 石巻地区の中学生58名、気仙沼地区の中学生は51名が地区外へ抜けた。その減少分もあり、石巻地区の募集定員の減少もあったため、例年並みになっている。
- (委員長) 次に、報告「平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」について報告願う。
- (事務局) 報告「平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」
(事務局より、資料に基づき、内容説明)
- (委員長) 事務局からの説明について質問があれば願う。なければ、これまでの周知活動で特に課題として挙げられていることがあれば、事務局から報告願う。
- (事務局) 中学校側からとしては、英検や数検などの各種資格の取扱い、中学生にどのように評定を伝えるのか、などについて、ご意見をいただいている。高校側からは、学校独自問題の作成上の留意点、学校独自問題の形式をどの程度まで周知するか、などである。
- (委員長) 中学校側で現在課題となっていること等は、今報告があった他に何かあるか。
- (高橋(泰)委員) まだ周知されていないが、前期選抜でどういう問題が出題されるのか知りたいという意見が多い。また、前期選抜で一応合格をとっておき、その保証で後期選抜で別な高校を受ける子どもたちは出てこないのか。今の推薦入試では校長から推薦を受けるので、合格した場合にはその学校に入学するという了解が成り立っていた。
また、評定の出し方がシビアになってくると思う。本校の場合、二期制であるが、今年から通信票に前期の評定と後期の評定、それに学年の評定を入れて、保護者に渡すことにした。学年評定を入れないと、子どもたちや保護者が自分の評定が分からなくなる。そういう意味で評定をはっきり示したことで、もう一つは評定を出したとき、不信不満が出てくるのでは、例えば、ある高校が示した条件が評定平均4.5で、受験生の評定平均が4.4だった場合、もう一つ何かの教科が上がっていればと担任や教科担任に迫ってくるのではないかとということが懸念される。
- (委員長) 確認したいことがある。前期選抜を滑り止めとして、後期選抜に出願するという選択肢があるのか、制度的なものなのか、指導的なものなのか、事務局で回答願う。
- (高校教育課長) 中学校の先生方に様々な点で御苦労いただいている。今後とも御指導願いたい。
合格を担保して受けることについて、現在の推薦入試の場合は、中学校長が推薦しているので歯止めが掛けられる。新入試制度においては、前期選抜で合格したなら後期選抜は受験できない、前期選抜で受験する高校が第一志望であることを想定して制度

設計している。

前期選抜でどういう問題が出るかということに関しては、現在の推薦入試ではオープンスクールなどで、過去問を提供したり情報提供をしている。今度は、過去問がないわけだが、来年の7月に問題の形式を示したい。どこまで受験生の励みになるかを踏まえて、問題がどのような形式になるかというところまでは公表したいと考えている。新入試1回目の生徒の不安を払拭するよう努めていく。

評定に関して、学年評定まで出していただいているということで大変ありがたい。今後も県内の中学校においては評定の出し方についてさらに検討していただき、適切な評価をしていただけるものと期待している。

(西野委員) 新しい入試制度では、特色のある高校づくりを同時に進めながら、子供たちが行きたい学校を選ぶ制度として進めていくということであるが、オープンスクールを開催した際、石巻線とか気仙沼線が不通で、今までなら通学できていた地区の生徒が参加できないという不都合があるのではないか。このような場合、支援があるのか。支援の必要な高校があるのかどうか伺いたい。

(高校教育課長) 今回の震災で現在の高校生も通学に苦労するという面があるが、少しずつバスの便が増えたり、時間を工夫し通学している。NPO等にも期待する部分もある。オープンキャンパス等については、例えば雄勝地区などでは例年バスを出していただいていた、という例もあるように中学校PTAなどにも協力を得ながら、このような機会に御協力をいただきたい。今後は情報収集しながら、入試へ向けて、どのような点が課題になるのか把握し、コミュニケーションを取りながら対応策を考えていく。

(委員長) 他はいかがか。

(伊藤(宣)委員) 宮城県の入試改革について平成25年度からいよいよ始まるということで、厳粛な気持ちである。入選審では公立私立を合わせて宮城の子どもたちの学力問題、学習意欲問題を見据えながら議論を重ねてきた。私立も25年度の入試は大改革であり、中学2年、保護者、学校関係者にむけてリーフレットを配布した。公立の入試のリーフレットも手に渡っている。前期選抜の性格に関して、生徒や保護者に誤解のないようにしっかりと記述願いたい。入試制度の安定を目指すこともあるが、子どもたちの学校選択が、人生選択にもかかわっているということを考えると、このリーフレットはどうであろうか。前期試験が専願制度なのであれば、そのことを明確にすべきではないかなと思う。前期選抜を担保にして、さらに後期選抜に賭けてみたいと思う子どもたちが出てこないとも限らない。混乱を引き起こす可能性はないだろうかということも心配している。私立は常に競争市場にあるので、はっきりすることははっきりするというところでやっている。入試業務になると予測できない問題が多々が出てきている。その点で、第2段のリーフレットでは、中学校や私立高校で問題になっていることを踏まえて作成をお願いしたい。

(高校教育課長) この件について、これまでリーフレットは2回出した。最近出したリーフレットのQ&Aでは、「前期選抜に合格した場合、後期選抜はどうなりますか、また前期選抜で不合格になった場合は、前期選抜と同じ学校に出願できますか。」という問いを作って、「前期選抜で合格した場合には、後期選抜には出願出来ません。また前期選抜で不合格になった場合には同一校を含めてどの学校へも出願できます。」という回答を付けている。なお、ご指摘の点も踏まえてさらに検討を重ね、紛れのない、誤解のないものに仕上げていきたい。

(委員長) より分かりやすいものということでお願いしたい。

(高橋(睦)委員) 県の中学校長会の部会で新しい入試制度については検討してきた。校長会の総意としてまとめたものを高校教育課長へも説明し、改善をお願いしてきた。今回ほど高校

教育課で説明，周知を図る活動をやっていただいたことはこれまでなかったことである。校長会の意見にも耳を傾けていただき感謝する。その中で話題になっていることは，英検等の取り扱いについて，現場としては，教育課程外の活動を取り上げて「出願できる条件」の一つの判断材料にするということはいかがなものか，ということが地区の理事会でも再度話題になったのでお話しする。評定の伝え方については，地区や市町村で同一歩調で進めようということに進んでいる。すべてを示す場合と，高校側で必要なところだけを示す場合があるが，子どもが不利益にならないように，評定を示す方向で進んでいる。

また，新しい入学者選抜資料10ページ，前期選抜の(2)の出願資格についての，イの「出願できる条件」が出願資格に入ってきたが，このことがしっくりいかない。「出願できる条件」は条件であって，出願資格とは違うのではないか。後期選抜や第二次募集には出願資格が記載されていないことも含め説明願いたい。

(高校教育課長) まず，現在の入試制度の中でも，調査書に漢検，英検の記述が多く見られることも踏まえて検討してきている。英検等は必須要件という提示はしていない。いくつかある出願できる条件のうちの一つとして提示している。それが生徒の特性，特質としてエントリーできるという性格である。

出願資格については，10ページに載っているのは，以前の答申を踏まえて方針がつけられたということで，9ページからの流れで載っているもので，後期選抜や第二次募集においては出願資格についての記載がなかったりしているが，このことについては要項を作成する段階ではしっかり精査をしていきたい。

(委員長) その他，意見はあるか。

(山口委員) 中2の保護者として感じていることを話す。前回の審議会で配付された入学者選抜概要一覧について，私の子どもの学校では7月中に印刷物として渡されていた。9月になって他の学校の保護者で，冊子，ホームページとも全く知らない親が何名かいた。受験生にとって喉から手が出るくらい欲しい情報だったので，その方はとても残念がっていた。学校が違うことで，受験者のもっている情報が違うことに疑問を感じている。今後情報を発信していくと思うが，学校や，学校の先生に左右されることなく，確実に当事者の受験生に渡るような周知活動をお願いします。

(高校教育課長) 貴重なご指摘ありがたい。いろんな方法を講じて周知に努めているが，なお中学校との連携を取りながら，学年や年度，地域中学校間で情報量の差が出ることをないようできるだけ努めるようにする。

(委員長) 他にあるか。

<なし>

(委員長) では，報告事項については以上で終了する。これまでの議事を踏まえて事務局ではさらに新入試制度の整備をお願いしたい。

では，「その他」について委員から何かあるか。

<なし>

(委員長) 事務局から，「その他」についてあるか。

(事務局) 特になし。

(委員長) 本日の審議はこれまでとし，これで議長の任を解かせていただく。

(委員長あいさつ)

(進行)
(教育次長)

(会進行)
(教育次長あいさつ)
(閉会)